

洪水ハザードマップは、柳井市で想定される洪水や災害が起こったときに必要な情報を示しています。いざというときに備えて、このハザードマップをご活用ください。

わが家の防災メモ

Table with 2 columns: わが家の避難場所, 避難場所までの移動時間 (分). 家族の集合場所(避難場所で見えなかった場合), 避難時の緊急連絡先.

家族の連絡先

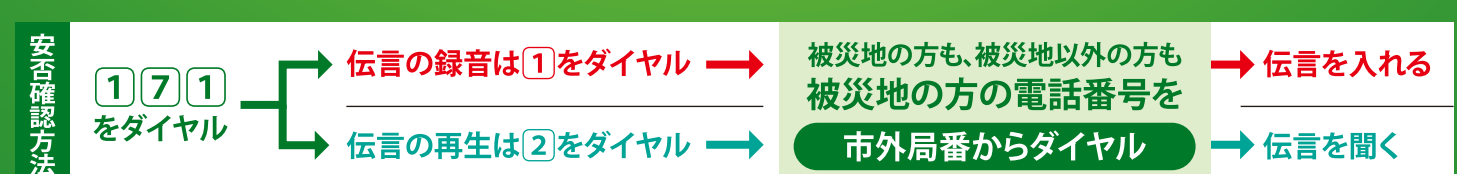
Table with 5 columns: 家族の名前, 生年月日, 携帯電話番号, 血液型, 会社・学校などの電話番号.

いざというときの連絡先

Table with 4 columns: 名称, 電話番号, 名称, 電話番号. 柳井市役所, 柳井土木建築事務所, 柳井地区広域消防組合.

災害用伝言ダイヤル1717

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内その他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。



警戒レベルと避難情報

避難情報等は、住民が情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを用いて発令します。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。なお、警戒レベルは低い順から出るとは限りません。いきなり「警戒レベル4避難指示」を発令することがあります。

Table with 4 columns: 警戒レベル, 状況, 住民が取るべき行動, 行動を促す情報. Levels 1 to 5.

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものはない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

大雨時の情報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。 ※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

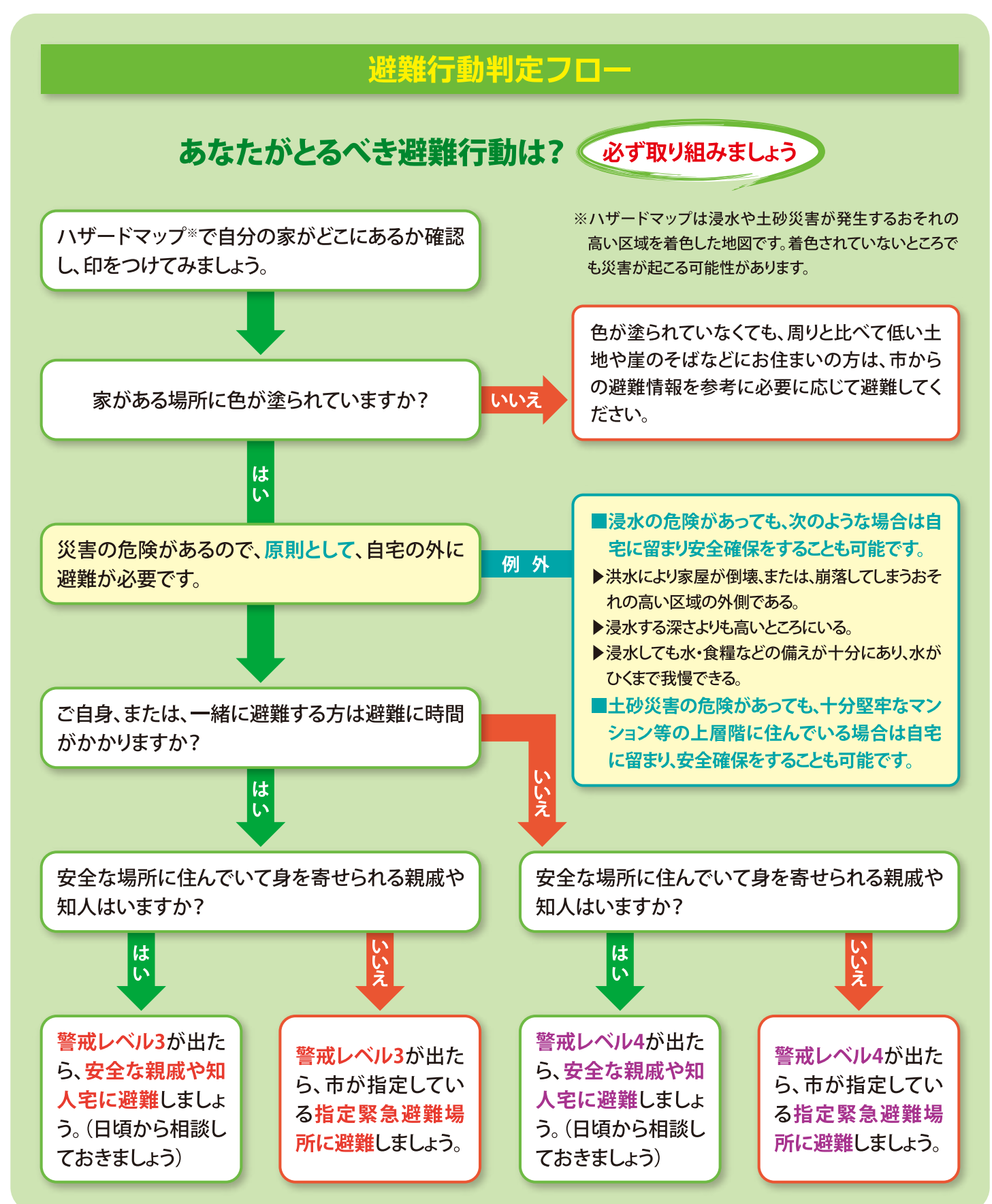
Table with 3 columns: 大雨・洪水注意報, 大雨・洪水警報, 大雨特別警報. Includes descriptions of each level.

記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じた時はすぐに安全な場所へ避難しましょう。

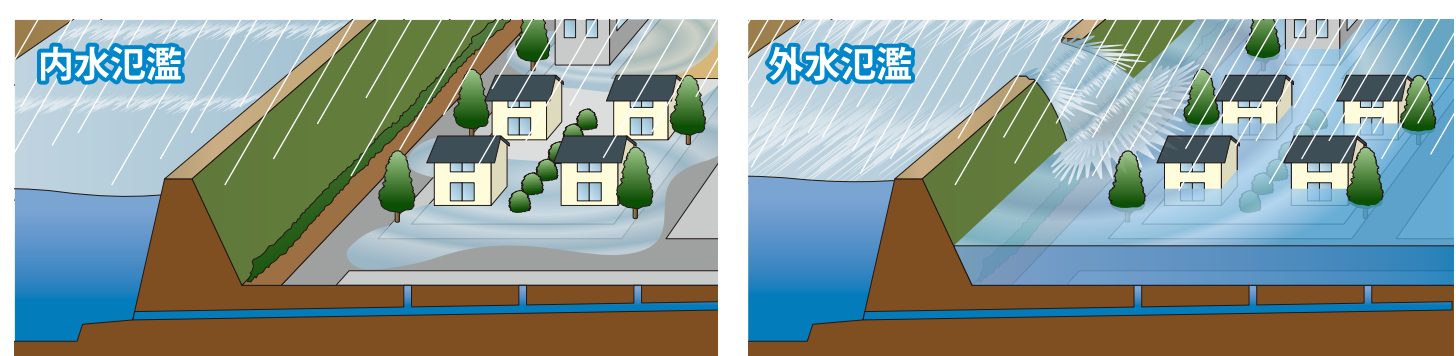
避難行動判定フロー

台風や豪雨時にあわせて避難をするためには、日頃から、周囲の災害リスクを把握し、いつ、どのような避難行動を取るべきか、事前に考えておくことが大切です。台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。



内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

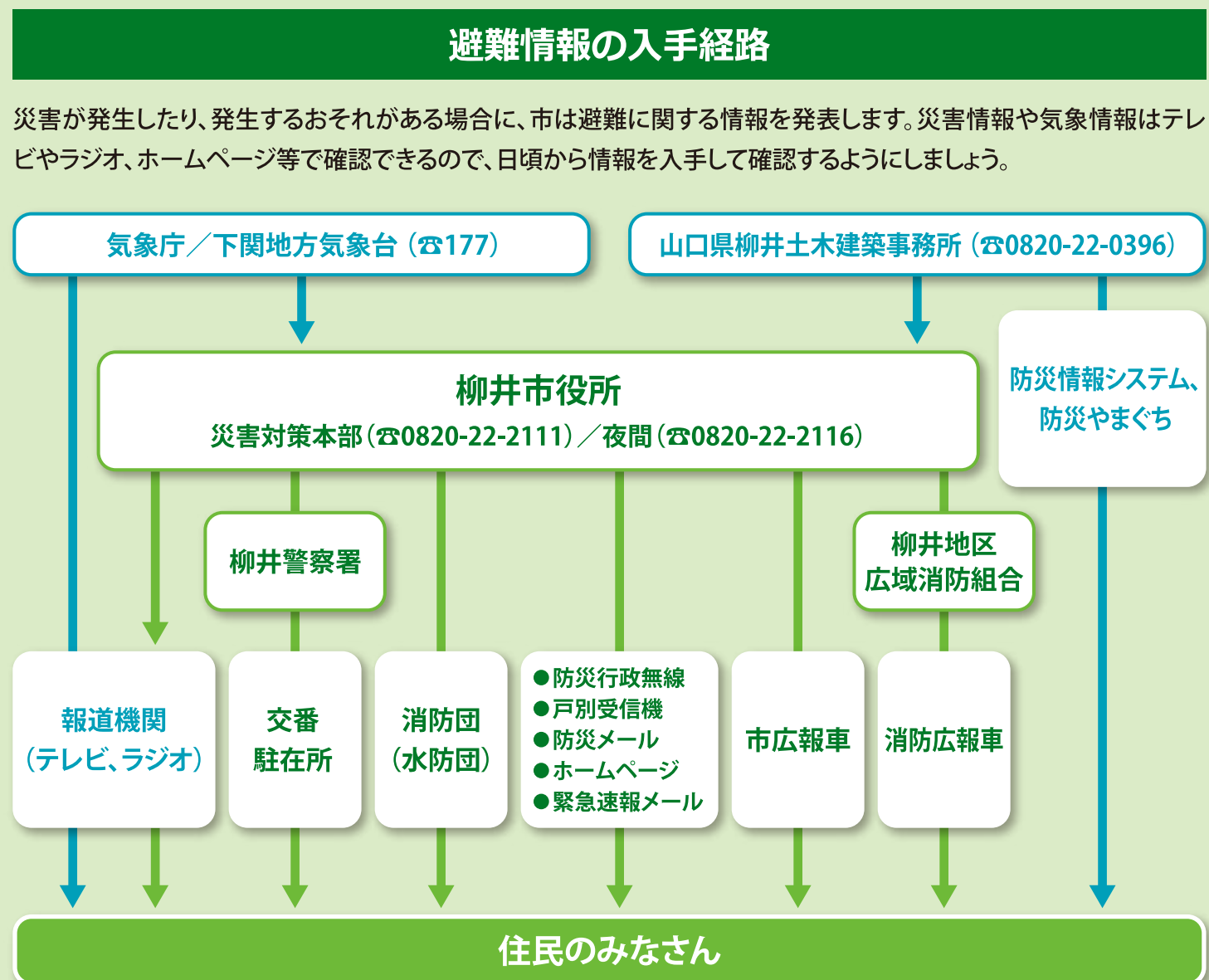
河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。

Table with 3 columns: 水位の名称等, 避難情報等, 内容. Lists water levels like 氾濫危険水位, 避難判断水位, etc.

※山口県の水位周知河川には避難判断水位の設定はありません。

気象庁 洪水警報の危険度分布. Includes a map and QR code for the hazard distribution.



柳井市防災メール, 山口県土木防災情報システム, 防災やまぐち, 柳井市防災行政無線の音声放送が聞き取れなかったとき.

避難のポイント

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

Evacuation tips: 状況により、すばやく避難しましょう, 浸水時に長靴は厳禁, 家族には連絡メモを残そう, etc.

要配慮者への避難支援

要配慮者とは、災害発生時に避難の手助けが必要な人々のことです。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力し合いながら、要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

Support for vulnerable groups: 高齢者・病人, 目・不自由な方, 肢体の不自由な方(車椅子), etc.

非常持ち出し品の準備

いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。

Checklist for emergency items: 食料, 救急・安全対策, 貴重品, 衣類など, 日用品など.

備蓄品の準備

日頃から、7日分の食料と飲料水を備蓄品として常備しましょう。

Checklist for stockpiling: 食料, 燃料・日用品など.

「循環備蓄」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「循環備蓄」といいます。定期的古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



日頃の備え

災害に備えて、家屋のまわりの見回りや地域とのつながりを大切にしましょう。

Checklist for daily preparation: 外壁, ベランダ, ブロック塀, 排水溝, 窓, 屋根・雨どい, etc.

地域の自主防災組織の活動に参加しましょう

洪水はもちろん、台風や地震などの災害や火事などによる被害を最小限に食い止め、安全な避難を実現するには、地域ぐるみの防災対策がもっとも有効です。日頃から、自主防災組織の防災訓練に参加したり、市の緊急避難場所へ避難する余裕がないときに備えて、近くの安全な場所にある自治会集会所などを地域の一時的な避難場所として決めておきましょう。

雨の降り方と強さ(1時間雨量)

Table showing rain intensity levels: やや強い雨, 強い雨, 激しい雨, 非常に激しい雨, 猛烈な雨.

家でできる簡易水防

浸水が強い場合には、土のう(なければ水のう)を設置することで、浸水防止に活用できます。

DIY water defense: 簡易水のうの作り方, 簡易水防工法例①, 簡易水防工法例②.